

世界一細い針！

(インスリンニードル)

“ナノパス 33[®]”



糖尿病の患者様にとって、インスリン注射を毎日行う事は、とても苦痛な事です。

注射針は細くて短い方が痛くないといわれています。その痛みを少しでも少ないものにするために、より細い針が開発されてきました。初めて製品化された針は、27Gで、現在では31Gが主流となっています。

2005年1月、33G(0.2mm)の針が登場しました。

“第48回日本糖尿病学会”にて、プレス発表された内容を、ここに報告します。

<ナノパス 33[®]の特徴>

- ① 世界一細い33Gの針先。(31Gより20%細い)
⇒「蚊」の針の太さと同じ ⇨ 痛くない!
- ② ダブルテーパ構造。(根元は28G、針先は33G)
- ③ 穿刺痕の大きさが小さい。
- ④ 注入抵抗は、31Gと同等。

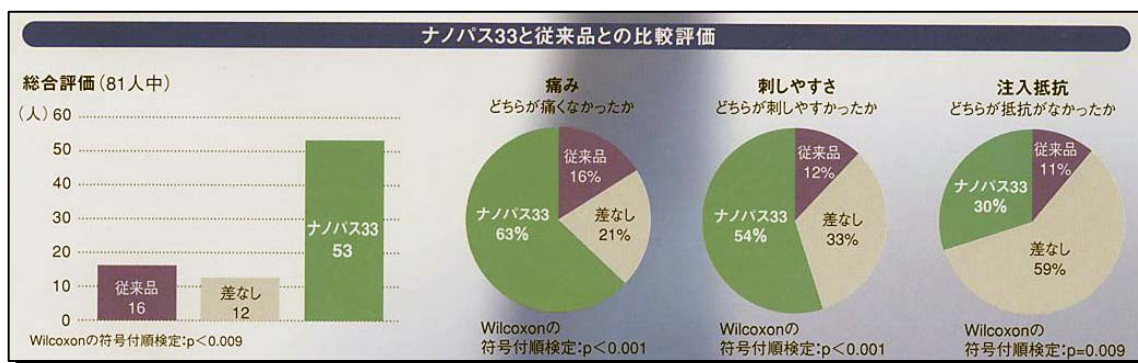
(注入抵抗が高いと、患者様が注射をする際、注入ボタンを押す時に力がある)



<ナノパス 33[®]パンフレットより抜粋>

- ⑤ 液漏れ(注射してすぐに針を皮膚から抜くとインスリンが針先から出てくる)は、31Gと同等。
- ⑥ どのデバイス(注入器)にもはめる事が出来る。
- ⑦ 実際の患者様の使用感(東京女子医大、太田西ノ内病院にて)

『痛み』『液漏れ』『出血』に関して、従来の針と比べて、ナノパス 33[®]が優れているとの評価。一方、“痛みが無くて皮膚に入った感じがしない、打った感じがしないため使いづらい”という回答もありました。



出展: 杉山和彦、清野弘明、朝倉俊成、榊崎晃史、中野玲子、辻本勉、虎石顕一 「インスリン治療におけるマイクロテーパ針(TN3305)の有用性」、「医学と薬学」Vol.52 No.3 2004(自然科学社刊)より抜粋改編

<ナノパス33[®]パンフレットより抜粋>

肉体的にも精神的にも負担の多い、インスリン療法を行う患者様にとって、より痛みの少ない針の登場は朗報です。

“ナノパス 33[®]”を使用する事により、少しでも前向きに治療に取り組める様になれば良いと思います。